

2年次選択科目 麻酔科臨床研修プログラム

この麻酔研修プログラムは1年次選択必修項目である麻酔研修を基礎として、さらに高度な周術期患者の全身管理を習得することを目的としている。

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

基本的医療手技を習得するうえで、十分な成果をあげる為には2か月以上の研修を積まれることが望ましい。

3. 指導体制

指導責任者： 濱 口 眞 輔 教 授 山 口 重 樹 教 授

主任指導医： 高 薄 敏 史

4. 教育に関する行事

毎朝術前カンファレンス、抄読会、学会、研究会発表への参加、論文の執筆など

5. 研修目標

総合目標	一 般 目 標 (G I O)
	1年次よりも高度な麻酔における知識、技術を習得する
	到 達 目 標 (S B O)
	麻酔に必要な呼吸・循環動態の管理方法及び酸塩基平衡などを再確認しつつ、1年次より高度に全身状態の管理法を習得する 気道確保、気管挿管、動脈穿刺、中心静脈穿刺などの技術をより高度に習得する 小児、高齢者や心臓麻酔など、多岐にわたる症例の麻酔によって全身管理法を習得する

基本的検査	一 般 目 標 (G I O)
	麻酔を行なうにあたって必要な診察・検査を習得し、麻酔計画を立案できる
	到 達 目 標 (S B O)
	術前管理に関する項目： 現病歴、既往歴、家族歴、麻酔歴などの聴取、記録から問題点を挙げられる 「基本的な身体診察法」に基づいた診察により、患者の全身状態の把握と記載ができる 血液一般、生化学、尿検査、肺機能検査の結果を解釈できる 心電図、X線撮影、その他の画像診断所見を解釈できる

	<p>必要な術前検査が未施行の場合、それを指摘して実施できる</p> <p>上記項目を総合して手術・麻酔に関するリスクファクターの理解と麻酔計画の立案ができる</p> <p>インフォームドコンセントのもとに患者、家族への麻酔に関する説明ができる</p> <p>麻酔前カンファレンスで症例提示ができる</p>
	<p>麻酔機器に関する項目：</p> <p>麻酔器の構造、安全装置、医療ガスの取り扱いについて理解する</p> <p>麻酔に必要な器具の点検、準備を習得する（高度な麻酔方法に関するものを含む）</p> <p>麻酔に関するモニター機器の原理を理解できる</p>
	<p>ペインクリニックに関する項目：</p> <p>ペインクリニックの適応となる疾患を理解する</p> <p>「基本的な身体診察法」に基づいた診察により、疼痛患者の病態を把握できる</p> <p>各種疼痛疾患の X 線撮影、その他の画像診断所見を解釈できる</p>

	<p>一 般 目 標 (G I O)</p>
	<p>麻酔に必要な基本的な手技を習得する</p>
	<p>到 達 目 標 (S B O)</p>
基本的手技	<p>(下線の手技は本大学病院・全員共通研修項目の必修項目に該当する)</p> <p>麻酔記録を記載できる</p> <p>全身麻酔 (概ね全身麻酔管理の手順に沿って記載してある)：</p> <p>症例ごとに必要な麻酔モニター機器を選択して装着できる</p> <p><u>注射法</u> (主に静脈確保、中心静脈確保) を実施できる</p> <p><u>気道確保</u> を実施できる (ラリングルマスクを含む)</p> <p><u>気管挿管</u> を実施できる (経鼻挿管など特殊な挿管技術を含む)</p> <p><u>人工呼吸</u> (バッグによる徒手換気、ベンチレーターとの装着と調節) を実施できる</p> <p><u>胃管の挿入と管理</u> ができる</p> <p><u>導尿法</u> を実施できる (尿量のモニターも含む)</p> <p><u>採血法</u> (静脈血、動脈血) を実施できる (動脈血ガス分析を含む)</p> <p>上記手技を総合して術中の呼吸・循環管理を行なうことができる</p>
	<p>局所麻酔：</p> <p>局所麻酔薬の使用方法を習得する</p> <p><u>局所麻酔法</u> を実施できる</p> <p>脊髄くも膜下、ならびに硬膜外麻酔を実施できる</p> <p>伝達麻酔を実施できる</p>

基本的治療法	一般目標 (GIO)
	麻酔に必要な基本的治療方法を習得する
	到達目標 (SBO)
	術中合併症への対応を習得する (全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔下における)
	薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物療法ができる
	静脈麻酔薬、吸入麻酔薬、筋弛緩薬の使用方法を習得する
	昇圧薬、降圧薬、抗不整脈薬などの麻酔時に必要な薬物の使用方法を習得する
基本的な輸液管理ができる	
輸血による効果と副作用について理解し、これを実施できる	
各種モニター類の情報 (データ) を解釈したうえで、治療に反映できる	
血液ガス分析データを酸塩基平衡論理に基づいて解釈し、治療に反映できる	
ペインクリニック :	
神経ブロック療法の機序・手技を理解し、習得する	
WHO 方式がん疼痛治療法を習得する	

6. 経験が求められる疾患・病態

経験が求められる疾患

気管支喘息	肥満
高血圧症	腎機能障害を来たす疾患
虚血性心疾患	肝機能障害を来たす疾患
かぜ症候群、咽頭炎など	肺機能障害を来たす疾患
糖尿病	

経験が求められる病態

脈拍異常 (頻脈、徐脈、周術期不整脈)	低酸素血症
血圧異常 (高血圧、低血圧)	喉頭痙攣
体温異常 (高体温、低体温)	悪心・嘔吐